

産大生と地域のかけ橋

ローカル・リッジ

Local × College



Vol. 2~3 2号連続特集

西山の伝統とこれから

「燃える水」歴史絵巻 草生水まつり
西山教育振興会「西山の未来を考えよう」

たかだ 竹あかり

史跡「飯塚邸」

幻想的な明かりにつつまれて



産大文化部 地域でも活躍！

書道部 / 放送部 / 吹奏楽部

観光大使の部屋 ❤

産スپ 2016年さらなる高みを目指す!!

卓球部・ライフセービング部・サッカー部



草生水まつり

「草生水まつり」とは

昨年の8月22日に西山町の「草生水まつり」に行つてきました。メイン会場のふるさと公苑ではよさこいの観演や盆踊り大会など、多くのイベントが催されていましたが、今回はこのまつりのメインである採油式から献上式までを、学生が密着取材しました。

昭和60年から始まり、昨年で30年目を迎えた「草生水まつり」。『日本書紀』には「越の國から燃える水、燃える土」である草生水(石油)が近江の國(現在の滋賀県)、大津宮天智天皇に献上された」との記述があり、それが西山町妙法寺集落で湧出している「草生水」のことと思われたこともあり、西山町の当時の若者たちが、イベントを参考案しました。

草生水の献上まで

①16時「採油式」

草生水献上場にて行われました。見学者も十数名おり、案内人の方が見学者に草生水を燃やして見せ、草生水の説明をしていました。その後、白衣(白衣の衣装)を着た人々が行列となつて献上場に到着し、天皇に献上するための草生水を汲み上げ、妙法寺大池主神社へと向かいました。

Vol.2~3 2号連続特集

西山の伝統とこれから

本誌 Vol.2~3 では 2 号連続の特集として、柏崎市西山町地区を学生が訪れ、そこでの体験や出会った人、感じたことを自身の言葉で紹介していきます。

旧刈羽郡西山町は 2005 年に高柳町とともに柏崎市に編入されました。軽井川に位置する広大な学生にとっては、同じ市内とはいえ、比較的馴染みの薄いエリアのようです。今回は『日本書紀』の記述を辿った「草生水まつり」で、日本最古の産油地とも言われる西山町のかつての風景に思いを馳せ、さらには、西山の子どもたちの夢を知り、未来の西山町について語り合う機会を得ました。昔の西山とこれからの西山、学生たちがはじめて触れた、まちの素顔をお伝えできればと思います。

④ 19時～ 献上式

ふるさと公苑西遊館（中国の伝統的な宮廷建築）前にて行われました。ここで都に草生水をささげる儀式を行います。また、儀式の中では、二田小学校伝承クラブの児童3名による、神楽舞が披露されました。この神楽舞は物部神社の宮司さんが、15年以前から指導されてこられたものです。確かにその儀式は、草生水まつりならではの華やかな光景でした。

▼子どもたちもかっこいいですね！



▼お前のおいがすごかったです。
② 17時10分～ 献上行列出発
大地主神社で安全を祈願した後、妙法寺北野方面に向かいました。

③ 18時25分～ 提灯・献上行列

休憩の後、提灯行列（献上行列を先導する役割で、道を明るくしてあげる人たち）も合流し、ふるさと公苑に向かいました。今年も小学生を中心におよそ50～60人が行列に参加していました。白馬は行列に参加していませんでした。足慣らしとして、広場での乗馬体験コーナーもしていて好評でした。



「伝承していくたい」

草生水まつり実行委員長の中川正賜さんは、「草生水まつりがなかったら、若い人や子どもたちはこの町から石油が産出されたということを知らないかっただろうし、関心もなかつたと思うので、これからも伝承していくたい」



▼貴重な一日でした。



また、「石油の祭り」ということから、火やエネルギーをテーマにした、アービールできるような企画を盛り込んでいきたい。例えば、国道の左右2kmくらいにかけて火を並べたりとか」とお話してくださいました。ただ、火を扱うということなので安全面などを考えると今のところ難しいそうなのですが、それが実現したらもっと若い人や子どもたちにも親しみのあるイベントになりそうですね。

西山の未来を考えよう

ファシリテーションの手法を使って



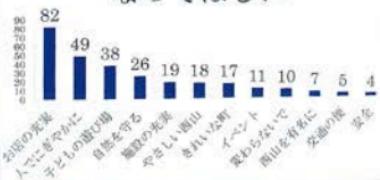
西山町内の二田小学校、内郷小学校、アンケート結果や西山の自然、歴史、西山中学校の児童生徒が文化などの学習内容を発表してくれました。

そのあと内郷小学校の6年生により西山町についての発表が行われ、またビデオによる西山中学校2年生と二田小学校6年生の発表もあり、西山町の児童生徒たちの西山町の自然を愛する気持ち、歴史に対する敬意と郷土への想いを知ることができました。

話し合いに先立ち、各学年の授業をみせていただきました。1年生の児童数の少なさに驚きましたが、スライドなど効果的に活用して、活気ある授業が展開されていました。

当日は、小中学校の教職員
保護者、西山町の地域の方々を
中心とした西山教育振興会の皆
様と、新潟産業大学教職課程の
2年生7名を合わせ約100人
が参加しました。

昨年11月20日内郷小学校にて、西山教育振興会の秋季研修会が開催されました。授業参観、西山町内の小中学校の児童生徒による西山町についての学習発表のあと、産大教養課程学生も参加させていただき、教職員や地域の方々と西山町の未来について話し合いました。



産大教職課程学生が 西山町の未来を考えてみた



一年生の授業風景

テレーションの手法を使い、「西山の未来を話そう考えよう」をテーマに話し合いが行なわれました。参加した産大生は西山町の出身者はもちろん柏崎市や柏崎市立高校の出身者もほとんどないので、最初はほとまどいもありました。しかし、西山町の未来についてお話ししさせていただくうちにそこからかなぶる雰囲気になり自分たちなりの意見を述べ、西山町の産業や歴史など今まで知らなかつた魅

取材・文・デザイン：長井美法・渡辺雄大

様々な世代の方との意見交換で

「まちづくり」に対する意識新たに

今日は発言の可視化のために、円卓状のボール紙「えんたくん」を使用しました。最初は緊張気味の学生たちでしたが、参加者同志が腰をつきあわせて話し合う距離の近さが逆に緊張をほぐしたように思います。

経済経営学科2年の大口博史さん（名古屋市出身）

が、それを理解しているのは大人。若者は商業施設などを求めていて、二つがずれている」と世代間の価値観の違いを指摘しました。どのように人口の減少に歯止めをかけ、新たな人を呼び寄せるかが課題という結論に至りました。

経済経営学科2年の田中穰さん（新潟市出身）

経済経営学科2年の田中穰さんは「町の未来について大人たちと話しあってみて、自分の思っていることと、大人の思っていることが違うすぎて驚いた。

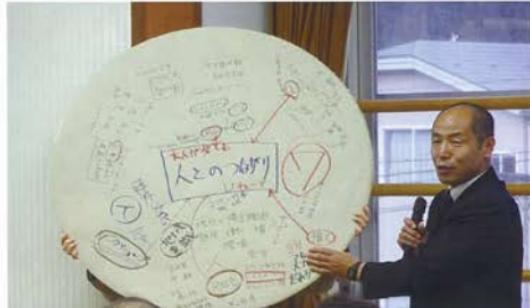
いた。一つの町について、たくさん的人が集まって意見を出し合うことは、その町の発展と住人の意識を高めるという意味でも良いことだと思う。まちづくりに対する考え方方が変わった」との感想を語ってくれました。

文化経済学科2年の渡辺雄大さんは「自分の班はほとんどが西山町以外の出身だった。しかし、各々まちづくりについての知識・意見を出し合うことで、自分たちの「まちづくり」に対する考え方にも搔き立てられたようです。

今回、西山町の未来について考える機会をいただき、それをきっかけに私の「えんたくん」による発表



文化経済学部2年 渡辺雄大さん（上越市出身）



「えんたくん」による発表

目標せ! 男女共に北信越大会優勝



産大ス。ボーツ

第2号

発行所

新潟産業大学

<海岸・椎田ゼミ>

北信越男子優勝! 女子3位!

卓球部の目標は、男女ともに北信越学生卓球選手権大会で優勝することです。今年度は、3つの大会に出場します。男子は見事、春季北信越学生卓球選手権大会で優勝し、インカレにも出場することができました。インカレでは、予選リーグ2位通過、決勝トーナメントでは1回戦、明治大学に0対3で負けてしましましたが、健闘しました。女子は、北信越大会では3位に入賞しましたが、優勝は逃しました。

練習は週6回、平日は約3時間半、休日は約7時間行っています。

メンバーは、男子15人、女子10人の計25人です。1年生10人、2年生5人、3年生4人、4年生6人で、男女力を合わせて練習しています。監督は小黒裕二先生。

女子キャプテンの3年生佐竹桃香さんは、「4年生が作り上げてきたことを引き継ぎ、みんなが少しでも成長できるよう、そして高め合えるようなチームにしていきたいと思います。普

みんなが高め合える チームにしていきたい



段からお世話になつてている方々への感謝の気持ちを忘れずに、男女ともにチームの目標にむかって頑張ります!」と意気込みを語ってくれました。2月には1・2年生のみの大会もあります。卓球部は、年々レベルが高くなっていますので、これからが楽しみです。また、卓球部はボランティアや学級行事事にも積極的に参加しています。



レースも監視活動も ベストを尽くす!

ライフセービング部は、現在部員数6人です。男子4人、女子2人と人数は少ないですが、週3～4日の厳しい練習に励んでいます。シーズンは夏から秋にかけてです。ライフセービング部は、ボランティアにも積極的に参加しており、海岸清掃などもしています。

今年度のメインの大会は、全日本ブーム競技選手権と全国学生ライフセービング選手権大会です。全日本ブーム競技選手権では、思うよくな結果が出せませんでしたが、全日本学生ライフセービング選手権大会では、2年生の高橋志穂さんが、女子200メートルスバーライフセーバー競技で優勝を果たしました。また、BLSアセスメント競技では、男女ともにA判定でした。

3年生の本間知葵さんは、「今まで一緒に練習してきた仲間と大会に出れるのは来シーズンが最後になります。悔いの残らないよう日々の練習を積み重ねて、最高のレースをするために仲間とともに頑張りたいと思います。応援、よろしくお願いします!」と強い意気込みを語ってくれました。これからも男女ともによい記録が出来るよう、頑張ってほしいです。

ライフセービング部



2年生の赤尾祐太さんは、「昨年は一部に上がれなかつた。今年上がれない自分たちはもう一部で試合が出来ない。今年こそは一部へ！」と強い意気込みを語りました。

2年生の赤尾祐太さんは、「昨年は一部に上がれなかつた。今年上がれない自分たちはもう一部で試合が出来ない。今年こそは一部へ！」と強い意気込みを語りました。

新体制二年目サッカー部 来シーズンこそ一部へ



気込みを語ってくれました。

練習は週6回で2時間ほどです。刈羽のグラウンドで練習を行っています。メンバーは全員で17人。4年生1人、2年生7人、1年生9人で、そのうち2人がマネージャーです。

サッカー部のテーマは人間形成。これは、技術を育てていくためや社会人になったときのためを意識しています。

サッカー部は、試合や練習だけではなく、積極的に地域交流やボランティアも行っています。また、毎日選手が曰替わりで書いているブログやホームページもあります。

サッカー部のこれからに期待です。



たかだ竹あかり

たかだ竹あかりとは

「たかだ竹あかり」のイベントは、高齢化によって荒れた竹林をどう整備するかの話し合いの末、伐採した竹を利用してイベントをしようということ

で、実現しました。その際、会場は地

域の宝である飯塚邸を利用し、時期は十五夜に、という梅澤・樺田ゼミの提案がありました。竹あかりのイベント

は今年で2回目を迎え、毎年の恒例行

事となりつつあります。

十五夜は「中秋の名月」といいますが、中秋とは旧暦の8月15日で、昔か

ら秋の澄んだ夜空に輝く美しい月とし

て愛でられてきました。十五夜の晩に

は、月見団子とススキが都会では一般

的ですが、柏崎では古くから、餅をつ

いて正月のお供え餅と同じく形を

整え、ススキよりはケイトウの花、ま

た芋、柿、栗、枝豆などとともに月に

お供えしたようです。

もう一つ忘れてはいけないのは、「十五

夜」はかぐや姫が月の世界に帰った晩でもあることでしょう。

飯塚邸とは

飯塚邸は江戸時代の終わり頃に造られた伝統的な日本家屋で、昭和天皇が

戦後の国内巡幸の折に泊られた柏崎の

史跡です。飯塚家はこの地域の大地主

として地域経営に貢献し、経済界及び

政界において活躍した家柄です。飯塚

邸のお庭「秋幸苑」は泡泉回遊式の広

く素晴らしい日本庭園で、ここに竹灯

籠約2500本を地域の人たちとされ

いに並べて、夕方点火しました。

篠笛やピアノ、フルート の音色を堪能

今年のイベントでは、音楽の演奏も

ありました。初日は篠笛、2日目はフ

ルートとピアノによる演奏でした。篠

笛では、日本の伝統音楽を、フルート

とピアノではヨーロッパのクラシック

音楽の月にまつわるいろいろな曲を

聴かせていただきました。

新しい試みで多くの人たちが楽しん

でいました。



篠笛の演奏

取材・文・デザイン：高橋桃花・増田泰大・植木敏郎



竹灯籠一つひとつに明かりを灯します。



お茶を楽しみました

竹あかりを楽しみながらお茶体験もありました。飯塚邸の本格的な茶室が複数ありますが、そのうち座敷棟のお茶室をつかって抹茶を頂くことができました。

長岡から来たという若いカップルは、はじめての茶道に出会って、緊張しながら、でも美味しいお菓子とお茶を頂き、「いい経験になりました。来年も来たいね」とふたりでニコニコと話してくれました。茶室から茶碗を持って縁側に出て、うつとりと庭の竹あかりを眺めている人もいました。



お茶室から見える風景



カミキリムシのようです。
飛び立ちそうですね。
噛まれたら痛いかな?



マツムシかな?
声が聞こえそうです。



地域の人たちの竹を使つた手づくり手芸品やブロによる精緻な竹細工の昆虫や様々な作品の販売がありました。

写真の部の優秀賞は竹田豊和さんの「月明かりと竹明り」です。「群立する竹灯籠と叢雲に浮えた月とのコントラストが異次元の風景を切り取つている」との講評を得ています。

俳句の部は「月の夜 竹あかり」と「月の夜 竹あかり」。作者の真貝宗希さんは小学校2年生ですが、北原先生から次のような高い評価をもらいました。

「月の夜」と「地面を照らす竹あかり」との間にいろいろな情景を思わせ秀逸」という講評です。将来が楽しみですね。



受賞者のみなさんの記念撮影

写真と俳句コンテスト

同時開催で、竹あかりの写真コンテストと俳句コンテストを開催しました。

尚、写真は新潟産業大学写真部、俳句は新潟産業大学学長 北原保雄先生が審査しました。

さらなる発展を目指して



今年の総来場者数は2500人で、大変多くの方々に竹あかりを楽しんでいただきました。2日間とも天候に恵まれ、竹あかりに囲まれた道を歩いて十五夜の月を愛でていた方が多く見受けられました。

このイベントに参加するにあたって、夏前から地域の方々との会合に参加し、連携を密にしてきました。夏場の朝から竹の伐採をしたり、当日にはお客様に楽しんで頂けるよう手際よく準備をしたり、みんなで力を合わせました。

イベントに一から携わるのは初めてで、戸惑った点もありましたが成功に終わり、とてもほっとした気持ちと達成感でいっぱいです。私たちのゼミテーマである「文化によるまちづくり」を肌で実感でき、とてもよい体験となりました。

来年は今年よりさらに盛り上がるような企画をしていきたいなど考えていま



● 太い「孟宗竹」は、慣れている地元の人がチェーンソーで伐採しました。太さは10cm以上、長さ5m以上もあり運び出すのも大変でした。



◀ 作業開始です。左側が、繁つて困っている竹林です。



▲ 高田地区にある「三諦寺」に集合しました。
(一般中の風景)



2mに切った竹をトラックで高田コミセンに運びました。

本数が多く丸いので崩れないので工夫しました。



仕上げは梅澤先生が見守りました。「カットは難しい！」



◀ 屋内では祭りで配るお菓子作りに奮闘しました。

美味しいそうな団子です。試食でいたたきました。



灯るまで



伐採した竹の枝を丁寧に切り落とします。根元から2mの部分を使い、その他は廃棄処分にしました。



竹あかりの長さにカットします。
電気ノコギリが活躍します。

竹伐採グループ全員集合！
お疲れ様でした。



産大文化部



大夫諱翔宇号清平
原麻次人也魏建安
中分麻次以為樂陵
郡故又為郡人馬

書道部

美文字に挑戦中

産業大学の書道部・部長小菅貴史さ

んが、第53回柏崎市美術展覧会（H27年10月3日～10月12日）において、入選しました。小菅さんは今回で3回目の入選になります。

書道部の活動は、毎週金曜日3時から301教室で練習をしています。5名の部員は、各種公募競書展に向けての練習をしたり、入学式、卒業式、新

年の始まりなど節目や季節ごとに、掲示用の大字や、色紙を書いて学内に飾り、学生や教職員の皆様の目を楽しませてくれています。

日常の硬筆（鉛筆）も練習していま

すので、「書いてみたい！」と言う気持ちがある方は、書道部の活動をのぞいてみてはいかがですか！



FMピッカラのスタジオからお届けします。

放送部 FMで生放送

放送部は、FMピッカラの「ホワイ
トボード」という番組を持っていま
す。毎週金曜日午後7時から1時間、
産業大学で活動している部活動の紹介
や先生のトークなど、楽しい企画が
いっぱいです。たまには、ラジオのス
イッチを入れてみてはいかがですか！
FM放送の7.4・3MHzに合わせて
聴いて下さい。

吹奏楽部 総合高校生と合同演奏



紅葉祭のステージは大成功でした

昨年秋の学園祭「紅葉祭」での吹奏
楽部ステージでは、「一昨年に引き続き、
柏崎総合高校吹奏楽部の皆さんをお招
きしての合同演奏が実現しました。夏
季休業中から高校にお邪魔して練習を
重ね、本番では、「風になる」、「宇宙
戦艦ヤマト」等のお馴染みの曲が講堂
にダイナミックに響きました。
産大吹奏楽部のみの演奏では、少な
い部員で足りないパートを補うように
一から編曲し直す等の苦労があります
が、これを見つかけに、今後は他の学
校や地域の方とも積極的に交流し、活
動の輪を広げていきたいそうです。

～観光大使の部屋♥～

私たち、
かしわざき観光大使です !!

♥思い出に残るイベントランキング best3 ♥

1 全国ご当地どんぶり選手権 in 東京ドーム

全国のご当地グルメが揃うこのイベントは、2010年から始まり、毎年開催されています。美味しい丼ぶりが揃うだけでなく、各都市のミス観光大使が集まり、ふるさと自慢を行います。柏崎市自慢の「鰯茶漬け」はこの大会で、過去2度のグランプリを獲得しています♪



2 越乃 Shu * kura お出迎え in 青海川



次回は、海外に行ったときのお仕事を紹介します。
お楽しみに♪

3 ふるさと観光展 in 仙台



1都10県が一挙に仙台駅に集まり、
ふるさと自慢を行ったイベントです。
私たちが、観光大使として初めて参加
したイベントでもあるので、とても印
象に残っています♪

柏崎市のゆるキャラ
えちごん



産大生と地域のかけ橋
ローカレッジ Vol.2
2016年1月30日 発行

編集・発行責任者
新潟産業大学 経済学部講師
椎田 勉子

*この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。
今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393 柏崎市軽井川4730番地
新潟産業大学 総務課
TEL : 0257-24-6655
FAX : 0257-22-1300

この冊子は、柏崎市の委託事業である平成27年度大学・地域連携推進事業「学生と市民による地域の魅力発見・発信のための広報誌制作」の活動として編集・発行しました。大学生が地域の人々と関わり合いながら、柏崎の魅力を再発見し、自身の手で情報発信していきます。市民プラザ、アルフォーレ、ソフィアセンター、コニセン等で配布しています。

4年生が制作したVol.1を引き継ぎ、Vol.2では3年生が中心となって、取材から原稿執筆、デザインまでを務めました。いかがでしたでしょうか？ Vol.3では、Vol.2に引き続き柏崎市西山地区を特集し、二田物部神社の弓始めの儀などを紹介します。また、まちかど研究室で実施したスタンプラリーなど冬のイベントも報告。3月下旬の発行を予定しています。どうぞ期待ください！

編集スタッフ：

新潟産業大学
文化経済学科3年
梅澤・桜田ゼミナール
(まちづくり・地方行政分野)

久我 優希
高橋 桃花
中村 侑人
増田 泰大
植木 敏郎
宮崎 美恵子

経済経営学科4年
文化経済学科4年
文化経済学科4年
若月 あいな
経済経営学科3年
文化経済学科2年
文化経済学科2年

右：高橋桃花
(文化経済学科3年)
左：五十嵐裕菜
(経済経営学科4年)

